

【その他】

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学における学生による授業アンケートの
再設計について

白垣 潤* 小野 隆*

要 旨

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学における授業アンケートについて、平成 26 年度に基本設計から見直し再設計し直したので、そのプロセスについて報告した。見直しの内容としては、1) 調査計画（独立変数と従属変数）、2) ワーディング、3) サンプルング、4) 妥当性、5) 信頼性、6) 倫理の 6 項目であった。それぞれの項目で改善が加えられた。今後、縦断的な検討も行っていく予定であるため、基本設計はこのままで微修正を施しながら、学園の教学マネジメントに資する 1 つの根拠となっていくことを期待したい。

キーワード：学生による授業アンケート、再設計

I. はじめに

岡崎女子短期大学において、学生による授業アンケートが導入されたのは平成 18 年後期からであり、項目は資料 1 の通りである（以下、旧アンケート）。

資料 1 旧授業アンケート項目（平成 18 年後期～平成 25 年
前期）

- 1) 授業内容（シラバス）には、この授業の内容がよく説明され、履修選択に役立ちましたか？
- 2) あなたは、授業内容（シラバス）を事前によく理解したうえで授業に臨みましたか？
- 3) あなたは、この授業に十分出席したと思いますか？
- 4) あなたは、この授業に関して予習・復習など自己学習を積極的に行いましたか？
- 5) あなたは、この授業に対して意欲的に取り組みましたか？
- 6) あなたは、この授業にマナー（私語・携帯電話・途中入退室など）を守りましたか？
- 7) あなたは、この授業の内容をよく理解し、目的・目標を達成できましたか？
- 8) この授業は、シラバスまたは教員の事前の説明どおりに授業が進められましたか？
- 9) この授業は、目的・目標・内容が興味深く、魅力的なものでしたか？
- 10) この授業は、わかりやすく筋道立てて構成されていましたか？
- 11) この授業の教科書、および参考書は内容の理解に役立つものでしたか？
- 12) この授業で与えられた課題の量と内容は適切なものでしたか？
- 13) この授業のクラスサイズ（受講者数）は適切でしたか？
- 14) この授業は、自分に身につくものが多く役立つものでしたか？
- 15) 教員は、休講、または遅刻が多かったですか？
- 16) 教員が使用する教材の提示方法（板書、配布資料、OHP、ビデオ画面、PC）
- 17) 教員の説明や話し方は分かりやすいものでしたか？
- 18) 教員は、学生が授業に集中できるような教室の秩序を維持していましたか？
- 19) 教員は、学生の疑問や質問に的確に、丁寧に応えていましたか？
- 20) 教室の設備（机、椅子、マイク、映像設備など）は快適でしたか？

平成 25 年後期から項目中のワーディングについての修正が加えられ、資料 2 のように変更されたが（以下、前アンケート）、導入以降、結果の導出は授業科目毎の度数と割合のみであり、各担当教員に印

刷されたものを返し、各教員が内省を記述することによって自己点検報告書としてきた（資料 3）。この在り方については過去に教授会等でも疑義が唱えられたが、そのまま行ってきた。

資料 2 前授業アンケート項目（平成 25 年後期～平成 26 年
前期）

- 1) あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか。
- 2) あなたは、授業に十分出席しましたか。
- 3) あなたは、この授業に関する自己学習（予習・復習など）に努めましたか。
- 4) あなたは、授業中のマナー（私語、居眠り、携帯電話、途中入退室、化粧等）を守ることができましたか。
- 5) あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。
- 6) あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。
- 7) シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか。
- 8) この授業の目的や到達目標は明確でしたか。
- 9) この授業で使用された教材（教科書、資料、材料等）は適切でしたか。
- 10) 黒板、ビデオ、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）などの使い方は適切でしたか。
- 11) 教員の話し方（声の大きさ、話す速さ、メリハリ等）は適切でしたか。
- 12) 学生の理解度を確認するなど、授業を進めるスピードが適切に保たれていましたか。
- 13) 課題の内容や量は適切でしたか。
- 14) 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。
- 15) 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。
- 16) 教員に、授業への熱意が感じられましたか。
- 17) 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。
- 18) 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。
- 19) 学生に対する不適切な言動など人権に関わる態度が見られましたか。
- 20) この授業の受講を後輩にも勧めたいですか。

例えば、全クラス実施したにも関わらず、専任教員の平均と各教員の全クラス平均しか結果を導出しておらず、回答数が多くなるため精度が低くなるという問題を上回って、クラス間比較、時間割間比較（1 限と 2 限などの全ての組合せ）などが出ていない。

* 岡崎女子大学子ども教育学部

資料3 【授業アンケートによる自己点検報告書】（平成25年度後期）

所 属 学 科		教 員 氏 名	
授 業 科 目 名		授 業 形 態	
学 年		ク ラ ス	
授業アンケートによる自己点検結果			
授業アンケートの結果で優れていた点			
授業アンケートの結果で改善すべき点			

しかし、学生による授業アンケートについては学園の教学運営に資する貴重なデータを取得できる契機であり、また根拠を基に運営し、さらにはその効果測定を行いまとめていくことで、外部資金獲得の基礎ともなり得ると考えられる。

今回、平成26年度に、学生による授業アンケートについて基本設計を根本から見直し、今後の運営に資するように変更したので、その経緯について報告する。

II. 見直し

【経緯】

平成25年10月23日の教授会で提案された授業アンケートについて、以下の見直しをお願いした。

- 1 調査計画（独立変数と従属変数）
- 2 質問紙の設計（ワーディング・回答形式など）
- 3 サンプルング（単純無作為抽出法、系統抽出法、層化抽出法、2段抽出法）
- 4 妥当性（内容的妥当性、基準関連妥当性、予測的妥当性）
- 5 信頼性（いつどこで誰が調査しても同じ結果になるか）
- 6 倫理（合意、プライバシーの保護、社会への還元）

1 調査計画（独立変数と従属変数）

従来の授業アンケートは、学生の受講状況の実態を厳密に把握する調査としてではなく、授業に対する学生の主観的な認識の概ねの傾向を把握し、個々の授業の改善の資料として活用することを企図してきた。従って、全授業の平均からのずれ、項目ごとの評価の相対的な差などから授業改善のポイントを見出す一つの手段として行ってきた。

計画の骨格としては、研究計画と同様に独立変数（学生の内省）→従属変数（教学マネジメントの改善）となるが、教学だけでいいのか、大学のハード面、ソフト面のインフラなどについても、今後の参考になる情報であると考えられる。

ただ、その際も中教審の答申にあるように「学生に求められる能力をプログラムとしての学士課程教育を通じていかに育成するかを明示すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し合いながら組織的な教育を展開すること、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー）に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立を図る」というところの、今回のアンケートは一部を担うに過ぎないので、独立変数と従属変数を考えるときに、もう少し鳥瞰的な視野で捉えることが必要ではないかと考えられる。

具体的には、授業科目の件については組織的には行われていないので（一部分野においては教員間のミーティングが行われているが、組織的には行っていない）、その辺も詰めなければならない事項であると思われるし、アセスメント・ポリシーをまず明確にしてアンケートの位置づけがなされると良いと思われるが、現状は不明確な印象である。

2 ワーディング

「あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか」という表現は「シラバスを読むのが当然である」という前提となっており、その結果、調査にフィルターがかかり、学生の生の動向が分からない状況となる。明らかに「先入観」というフィルターがワーディングにゆがみを生じさせており、後の「妥当性」と「信頼性」に関わることになるので、回避することが常識となっているがそのまま使用されている。

その他、「シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか」「この授業の目的や到達目標

は明確でしたか」「教材は適切でしたか」「黒板、ビデオ・・・」「スピード・・・」「課題の内容や量・・・」「質問や発言を促す・・・」「学生の発言や質問に適切に対応」「授業への熱意」などは、学生に価値観を委ねる質問となっており不適切であると思われる(宇佐美、2004；有本、2005；有本・北垣、2006)。

また、中教審の答申に挙げられているように、職員間の専門スタッフの育成、コンソーシアム等の大学支援組織との関連、アセスメントテスト、学修行動調査、ループリック（本学の場合「学修の記録」）などについても関連すべきことは質問項目に入れる必要がある。

また、答申で地域社会・企業等に求められているように、「学士課程教育はキャンパスの中だけで完結するものではなく・・・」ということについても、仕組みとして取り入れられるような制度・枠組みを作っていく必要があると思われる。

その一方で、「学修時間の確保」などについては、本来求められている学修時間をはるかに下回っている実態が伺えることから、逆に質問項目で啓蒙・指導しつつ、達成しているかどうかの項目はあってもいいかも知れない。

3 サンプリング

今回から導入する全数調査という案は、サンプリングの問題は生じないが、対象が全科目ということになり、回答者側においては20回程度同じ質問に回答しなければならず、結果の信頼性に問題が生じてくることが懸念される。

例えば、無作為抽出で重複しないように、各クラス4～5名程度で1人2科目までとするならば、学生の負担は一気に減るが、データ数が足りなくなる。この辺は結果をどのように使用するかという従属変数にも関わってくることである。

おそらく、目的を達成するためには、クラスミーティングの際に全ての授業について一括に評価するという方法だと学生の負担は少なく、科目間格差も出やすいのではないと思われる。

また、重複する質問は回避でき、さらには科目に限らず、大学全般のこと（例えば学食とか施設、通学などのソフト面・ハード面）について聞くことが可能になると考えられる。

4 妥当性

従来検討されてきた資料が残っておらず、今後は妥当性についてFD委員会等で継続的に検討する必要があると考えられる。

5 信頼性

内的整合性と再テスト法などをどう押さえるかが鍵となると思われる。これについてもFD委員会等で継続的に検討する必要があると考えられる。

6 倫理

質問紙の設計と目的を対象者に対して明示し合意が得られる必要がある。これは被対象者となる教員や職員に対しても同様である。

従来のような目的が明示されていない調査に対しては、個人の合意を得ておかないと法的な問題にも発展することがあることは注意する必要があると思われる。

プライバシーの保護についても「匿名」というだけではなく、明示する必要があると考えられる。従属変数をきちんと明示し、社会への還元（今回の場合は直接は大学の教学マネジメントの改善）についても明示していく必要があろう。

Ⅲ. 改善

以上のように、平成26年度より、基本設計から見直す手続きを行い、以下の通り、改善・変更した。

【目的】

このアンケートは学生の視点を活用して、本学の授業改善を図るためのものである。

平成26年度改定版では、基本設計から見直し、各項目群の着眼点を明示し、結果の提示方法を、これまでの全平均値だけでなく、教員の教育力以外の要因の分析結果も同時に導出できるようにし、多面的かつ総合的な視点から授業改善につなげていけるようにした。

【項目】

・平成26年度改訂版は、北海道大学、国際基督教大学、東北大学、東海大学などの項目を参考に、昨年度までの本学の項目で活かせるところは活かし、項目内容・数を厳選し作成した。

・学生の授業に対する理解度を上げるには、教える側の要因だけでなく、学生側の学ぶ姿勢の要因もあると考えられることから、学生自身が主体的に学修する立場であることをできるだけ自覚できるように項目内容とその配置の工夫をした。

【方法】

5件法によるアンケート調査

【分析方法】

以下の変数によって有意差を検討する

- 1) 講義授業、演習授業、実技授業との違い
- 2) 1～5 限毎の違い
- 3) 月～土毎の違い
- 4) 配当年次の違い
- 5) 受講者数の違い (15 名以下、16～40 名、41～80 名、80 名以上)
- 6) 教室の違い (個別の教室番号毎、階数毎、建物毎)
- 7) 学科間の違い
- 8) クラス間の違い
- 9) 科目名称毎の違い
- 10) 同一科目毎の違い 等々

【統計処理】

独立変数 1 個のみで上記の変数で

従属変数 2 個のみの場合→ t 検定

3 個以上の場合→分散分析→ (有意差のある場合) →要因分散分析 (Kruskal-Wallis)

【項目の検討とワーディングについて】

項目の検討とワーディングについては、国際基督教大学授業効果調査の枠組みを参考にし、大きな変更を避けるためにも旧アンケート及び前アンケートの項目とも照合して構築していった。なお、照合の検討は以下の通りである。

①

旧 1) 授業内容 (シラバス) には、この授業の内容がよく説明され、履修選択に役立ちましたか？

旧 2) あなたは、授業内容 (シラバス) を事前によく理解したうえで授業に臨みましたか？

前 1) あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか。

②

旧 3) あなたは、この授業に十分出席したと思いますか？

前 2) あなたは、授業に十分出席しましたか。

③

旧 4) あなたは、この授業に関して予習・復習など自己学習を積極的に行いましたか？

前 3) あなたは、この授業に関する自己学習 (予習・復習など) に努めましたか。

④

旧 5) あなたは、この授業に対して意欲的に取り組みましたか？

前 5) あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。

⑤

旧 6) あなたは、この授業にマナー (私語・携帯電話・途中入退室など) を守りましたか？

前 4) あなたは、授業中のマナー (私語、居眠り、携帯電話、途中入退室、化粧等) を守ることができましたか。

⑥

旧 7) あなたは、この授業の内容をよく理解し、目的・目標を達成できましたか？

前 6) あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。

⑦

旧 8) この授業は、シラバスまたは教員の事前の説明どおりに授業が進められましたか？

前 7) シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか。

⑧

旧 9) この授業は、目的・目標・内容が興味深く、魅力的なものでしたか？

前 8) この授業の目的や到達目標は明確でしたか。

⑨

旧 10) この授業は、わかりやすく筋道立てて構成されていましたか？

⑩

旧 11) この授業の教科書、および参考書は内容の理解に役立つものでしたか？

前 9) この授業で使用された教材 (教科書、資料、材料等) は適切でしたか。

⑪

旧 12) この授業で与えられた課題の量と内容は適切なものでしたか？

前 13) 課題の内容や量は適切でしたか。

⑫

旧 13) この授業のクラスサイズ (受講者数) は適切でしたか？

⑬

旧 14) この授業は、自分に身につくものが多く役立つものでしたか？

⑭

旧 15) 教員は、休講、または遅刻が多かったですか？

⑮

旧 16) 教員が使用する教材の提示方法 (板書、配布資料、OHP、ビデオ画面、PC 画面など) は解りやすいものでしたか？

前 10) 黒板、ビデオ、プレゼンテーションソフト (パ

ワーポイント等)などの使い方は適切でしたか。

⑩

旧17) 教員の説明や話し方は分かりやすいものでしたか？

前11) 教員の話し方(声の大きさ、話す速さ、メリハリ等)は適切でしたか。

⑪

旧18) 教員は、学生が授業に集中できるよう教室の秩序を維持していましたか？

前17) 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。

⑫

旧19) 教員は、学生の疑問や質問に的確に、丁寧に応えていましたか？

前15) 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。

⑬

旧20) 教室の設備(机、椅子、マイク、映像設備など)は快適でしたか？

⑭

前12) 学生の理解度を確認するなど、授業を進めるスピードが適切に保たれていましたか。

前14) 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。

前16) 教員に、授業への熱意が感じられましたか。

前18) 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。

前19) 学生に対する不適切な言動など人権に関わる態度が見られましたか。

前20) この授業の受講を後輩にも勧めたいですか。

以上の結果、資料4の通りの項目となった。

「1 あなた自身について(1～4)」、「2 授業について(5～8)」、「3 授業方法、教員について(9～16)」、「4 教育効果について(17～19)」の4つの大項目に分類されることを明示し、さらに自由記述についても具体的な3つの質問項目とすることで、記入しやすい形式となるように工夫した。今後、縦断的な検討も行っていく予定であるため、基本設計はこのままで微修正を施しながら、学園の教学マネジメントに資する1つの根拠となっていくことを期待したい。

参考文献

- ・有本章(2005)『大学教授職とFD』東信堂
- ・有本章・北垣郁雄(2006)『大学力 真の大学改革のために』ミネルヴァ書房
- ・宇佐美寛(2004)『大学授業の病理-FD批判-』東信堂

資料 4

学生による授業アンケート

実施日 年 月 日

このアンケートは学生の視点を活用して、本学の授業の改善を図るためのものです。

- 調査は無記名で行い、個々の回答内容について公開されることはありません。
- 回答内容が成績に影響することはありません。
- 学生がそれぞれが、大学を構成する重要な一員として、本学の教育をより良いものにするという意識のもとに、率直に回答してください。
- 回答内容（数値データ）に関しては、ファイルにまとめ、授業担当者だけでなく、学生や教職員が学修センターで閲覧できるようにするとともに、教育環境の改善をする上での大切な資料とします。

■ 授業科目、教員氏名、あなたの学年クラスを記入してください。

授業科目		
教員氏名		
あなたの学年クラス	年	クラス

■ 1 から 19 の設問について、5 段階評価でもっとも適切な番号に○をつけてください。

【設 問 項 目】

選択基準： 5 と思う 4 少し思う
3 どちらともいえない 2 あまり思わない
1 そう思わない

1 あなた自身について

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1 あなたは、シラバスを事前に読んでよく理解した上で授業に臨みましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 あなたは、この授業に積極的に参加しましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 この授業 1 回(90 分)のための予習・復習に費やした時間は平均()であった。
⑤ 4 時間以上 ④ 3 時間 ③ 2 時間 ② 1 時間
① 30 分以下 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 4 あなたは、授業中のマナー(私語、居眠り、携帯電話、途中入退室等)を守ることができましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

2 授業について

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 シラバスや教員の事前の説明は目標、内容、評価方法を示し、分かりやすいものでしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 この授業は、シラバスまたは教員の事前の説明どおりに授業が進められましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 課題の内容や量は適切でしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 授業内容の難易度は適切でしたか。
⑤ 非常に難しい ④ 難しい ③ 適切 ② やさしい
① 非常にやさしい | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

3 授業方法、教員について

9 教員に、授業への熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
10 教員の説明は分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
11 教員の話し方（声の大きさ、話す速さ、メリハリ等）は適切でしたか。	5	4	3	2	1
12 黒板、教科書、ビデオ、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）などの使い方は適切でしたか。	5	4	3	2	1
13 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。	5	4	3	2	1
14 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。	5	4	3	2	1
15 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。	5	4	3	2	1
16 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。	5	4	3	2	1

4 教育効果について

17 あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。	5	4	3	2	1
18 授業により知的に触発され、さらに深く勉強したくなりましたか。	5	4	3	2	1
19 授業は全体として満足できるものでしたか。	5	4	3	2	1

■ 自由記述

○ この授業で良かったと思う点について書いてください。

○ 改善した方がよいと思う点について書いてください。

○ その他、教室の設備や校舎の環境などについて改善を要望するようなことがありましたら書いて下さい。

